

## Silk Test 15.0

リリースノート

**Micro Focus**  
575 Anton Blvd., Suite 510  
Costa Mesa, CA 92626

Copyright © Micro Focus 2014. All rights reserved. Silk Test は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2014 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2013-12-10

# 目次

<b>Silk Test 15.0 リリース ノート</b> .....	<b>4</b>
<b>Silk Test 製品スイート</b> .....	<b>5</b>
<b>システム要件および前提条件</b> .....	<b>6</b>
ハードウェア要件 .....	6
ソフトウェア要件 .....	6
<b>インストール手順</b> .....	<b>7</b>
<b>Silk Test の新機能</b> .....	<b>8</b>
モバイルブラウザのサポート .....	8
容易な記録と再生 .....	8
構成テスト .....	8
ユーザビリティの改善 .....	9
既存のテストの拡張 .....	9
Silk Test Workbench ログインの簡易化 .....	9
デフォルト Admin ユーザーの削除 .....	10
エージェント固有のドキュメント .....	10
カスタム コントロール サポートの強化 .....	10
使用技術の更新 .....	10
Microsoft Visual Studio 2013 .....	10
Eclipse の新しいバージョン .....	10
Microsoft Windows 8.1 のサポート .....	10
Internet Explorer のサポート .....	11
Mozilla Firefox のサポート .....	11
Google Chrome のサポート .....	11
Rumba のサポート .....	11
Apache Flex のサポート .....	11
<b>既知の問題</b> .....	<b>12</b>
全般的な問題 .....	12
モバイル アプリケーション .....	13
Web アプリケーション .....	14
Google Chrome .....	14
Internet Explorer .....	15
Mozilla Firefox .....	16
Rumba アプリケーション .....	16
SAP アプリケーション .....	16
Silk Test Classic .....	17
Silk Test Workbench .....	18
Silk4NET .....	20
Silk4J .....	21
<b>解決済みの問題</b> .....	<b>22</b>
<b>ライセンス情報</b> .....	<b>24</b>
<b>テストされたソフトウェア</b> .....	<b>25</b>

# Silk Test 15.0 リリースノート

このファイルでは、ヘルプには表示されない場合もある重要な情報について説明します。このファイル全体をお読みください。

このドキュメントの最新バージョンについては、<http://supportline.microfocus.com/productdoc.aspx>を参照してください。

カスタマー ケアからサポートを受けるには、[supportline.microfocus.com](http://supportline.microfocus.com) に移動してください。

# Silk Test 製品スイート

Silk Test 製品スイートには、以下のコンポーネントが含まれています。

- Silk Test Workbench : Silk Test Workbench は、新しいネイティブ品質テスト環境です。上級者用の .NET スクリプトと、より幅広い利用者がテストを行えるようにする使いやすいビジュアルテストが提供されます。
- Silk4NET : Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 Visual Basic または C# のテスト スクリプトを作成できます。
- Silk4J : Silk4J Eclipse プラグインを使用すると、Eclipse 環境で直接 Java ベースのテスト スクリプトを作成できます。
- Silk Test Classic : Silk Test Classic は、従来の 4Test Silk Test 製品です。
- Silk Test Agent : Silk Test Agent は、テストのコマンドを GUI 固有のコマンドに変換するソフトウェアプロセスです。つまり、テストするアプリケーションをエージェントが動かす、監視しています。ホストマシン上で 1 つのエージェントをローカルに実行できます。ネットワーク環境では、任意の数のエージェントをリモート マシン上で実行できます。

# システム要件および前提条件

以下のセクションでは、Silk Test をインストールして実行するためのシステム要件を示します。

## ハードウェア要件

以下のハードウェア要件をお勧めします。

システム領域	要件
プロセッサ	Intel または AMD の DualCore プロセッサ (2 GHz)
RAM	2 GB
ハードディスク領域	2 GB の空きディスク領域



**注:** 自作機 (ベアボーンキット、ショップブランド機を含む) は動作保証外です。

## ソフトウェア要件

Silk Test をインストールして実行するには、次のソフトウェアがインストールされている必要があります。

- Microsoft .NET Framework 4 (フルセットアップ)

# インストール手順

インストールおよびライセンスの問題については、インストールガイドを参照してください。インストールガイドは、<http://supportline.microfocus.com/productdoc.aspx> から入手可能です。

# Silk Test の新機能

このセクションでは、Silk Test に対して行われた重要な改善と変更を示します。

Silk Test 15.0 では、以下の機能をサポートしています。

## モバイル ブラウザのサポート

既存のスクリプトを使用して、モバイル デバイス上で実行することによって、Web 2.0 アプリケーションがモバイル デバイスでも同様に動作する確信を得ることができます。モバイル デバイスでのみ実行可能なスクリプトを追加して作成する必要はありません。デスクトップ ブラウザ用に作成した既存のブラウザ スクリプトを単純に再利用することができます。モバイル ブラウザのサポートは、Silk4J、Silk4NET、および Silk Test Workbench で利用可能です。



## 容易な記録と再生

新しい統合されたワークフローによって、任意のアプリケーションに対するスクリプトの記録と再生が容易になりました。モバイル ブラウザの記録も含まれ、新しい直感的でよりインタラクティブな記録方式が提供されます。実際の記録中に、スクリプトであるべきことを選択できるため、より良いスクリプトが生成されます。

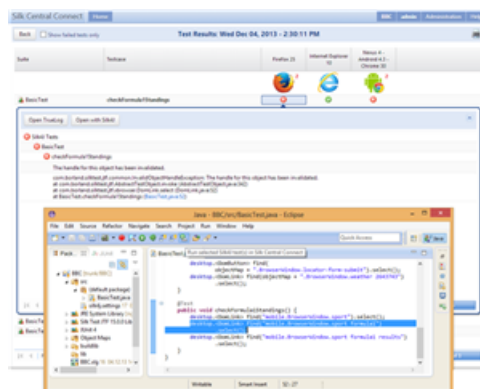


## 構成テスト

数多くのプラットフォームとブラウザーの組み合わせで Web 2.0 アプリケーションをテストすることが必要になる場合があります。Silk4J と新しい製品 Silk Central Connect を使用することで、さまざまなブ



ラットフォームとブラウザの組み合わせ (構成) でテストを実行することができるようになります。この構成には、Amazon Cloud で事前に設定された構成も含まれます。

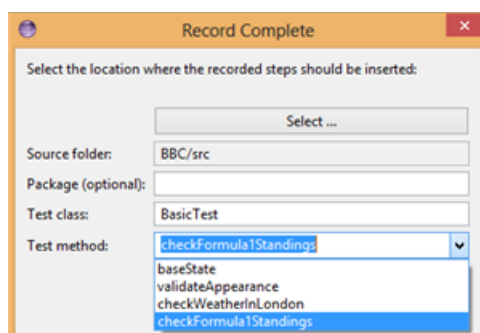


## ユーザビリティの改善

このセクションでは、Silk Test15.0 に対して行われたユーザビリティの改善点の一覧を提供します。

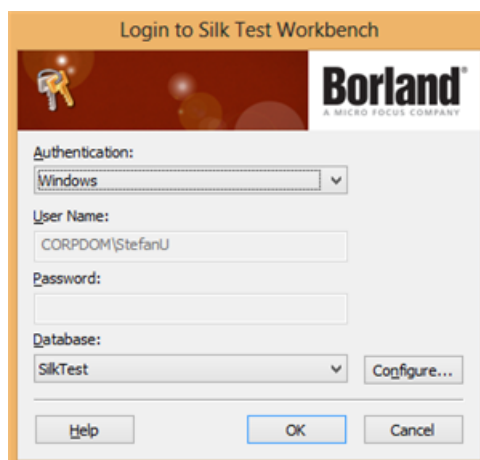
## 既存のテストの拡張

不完全で、ワークフローをさらに追加して拡張する必要があるテストがあります。操作の記録ボタンを既存のテスト内で単に押すことで、すべての記録した操作がテストに追加されます。



## Silk Test Workbench ログインの簡易化

Silk Test Workbench を起動するたびに、資格情報を入力するのは非常に面倒です。Windows 資格情報を使用してログインできるようになりました。



## デフォルト Admin ユーザーの削除

Silk Test Workbench の管理者権限を持つ他のユーザーを作成すれば、デフォルトの *Admin* ユーザーをユーザーのリストから削除できるようになりました。

## エージェント固有のドキュメント

Silk Test Classic は、各エージェントで異なる機能を提供します。エージェントごとに提供される機能に簡単にアクセスできるようにするために、Silk Test Classic はエージェントごとに別の PDF を提供できるようになりました。PDF を開くには、**スタート > すべてのプログラム > Silk > Silk Test > ドキュメント > Silk Test Classic** をクリックします。

## カスタム コントロール サポートの強化

動的呼び出しをサポートするすべてのテクノロジ ドメインで、オブジェクトのプロパティを読み込むのと同じ方法で、オブジェクトの public フィールドの値を読み込むことができるようになりました。次のサンプルコードでは、public フィールド *myPublicField* (オブジェクト *myObject* の一部) の値を読み込む方法を紹介します：

```
myObject.GetProperty("myPublicField");
```

## 使用技術の更新

このセクションでは、Silk Test15.0 に対して行われた重要な使用技術の更新をリストします。

### Microsoft Visual Studio 2013


Silk4NET を Microsoft Visual Studio 2013 Professional 以上に統合してアプリケーションをテストできるようになりました。

### Eclipse の新しいバージョン

Silk4J に同梱された Eclipse のバージョンが 4.3.1 になりました。

### Microsoft Windows 8.1 のサポート

Microsoft Windows 8.1 上で Silk Test を使ってアプリケーションをテストできるようになりました。

 **注:** Metro アプリはサポートされません。

## Internet Explorer のサポート

Silk Test は、以下のリリースで実行されているアプリケーションの記録と再生をサポートするようになりました。

- Internet Explorer 11

## Mozilla Firefox のサポート

Silk Test は、以下のリリースで実行されているアプリケーションの再生をサポートするようになりました。

- Mozilla Firefox 22
- Mozilla Firefox 23
- Mozilla Firefox 24
- Mozilla Firefox 25

## Google Chrome のサポート

Silk Test は、以下のリリースで実行されているアプリケーションの再生をサポートするようになりました。

- Google Chrome 28
- Google Chrome 29
- Google Chrome 30
- Google Chrome 31

## Rumba のサポート

Silk Test は、Rumba 9.1 および 9.2 をサポートするようになりました。さらに、Silk Test は Unix ディスプレイのテストをサポートするようになりました。

## Apache Flex のサポート

SilkTest は Apache Flex 4.10 アプリケーションをサポートするようになりました。

# 既知の問題

このセクションでは、Silk Test の既知の問題とその解決策を示します。

## 全般的な問題

### オブジェクト マップを開くのに時間がかかる

.NET 4 を使用している場合、大規模なオブジェクト マップ資産があると読み込みに時間がかかります。.NET 4.5 をインストールすると、この問題を解決できます。

### リモート デスクトップまたはリモート デスクトップ接続 (RDC) が最小化されると、Silk Test が機能しない

リモート デスクトップ プロトコル (RDP) 経由でデスクトップに接続している場合、マウスとキーボードを使ってデスクトップに接続することにより、デスクトップの所有権を獲得します。デスクトップの所有権を解放せずにデスクトップを最小化すると、マウス クリックまたはキーストロークの再生がすべて未定義になります。

推奨される構成としては、VMWare サーバーで Silk Test を実行し、VMWare クライアント ソフトウェア 経由で接続します。これにより、クライアントが終了された場合でも再生を継続できます。

### Check Point ファイアウォールがインストールされている場合に Open Agent が起動しない

システムに Check Point ファイアウォールまたは Check Point ZoneAlarm ファイアウォールをインストールしている場合は、ファイアウォールが Agent と infoservice 間の通信を中断するために Open Agent を起動できません。

Open Agent を起動するには、システムから Check Point ファイアウォールをアンインストールする必要があります。

### Mozilla Firefox を使用した Silverlight アプリケーションのテストがマシンによっては機能しない

Mozilla Firefox で使用した場合、マシンによっては Silk Test での Silverlight のサポートが正常に動作しない場合があります。ホスト Mozilla Firefox プロセスがプラグイン プロセスを呼び出すのと同時に Mozilla Firefox プラグイン プロセスがホスト Mozilla Firefox プロセスを呼び出した場合、デッドロックが発生する可能性があります。詳細については、[https://bugzilla.mozilla.org/show\\_bug.cgi?id=686861](https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=686861) または [https://bugzilla.mozilla.org/show\\_bug.cgi?id=558986](https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=558986) を参照してください。Silk Test が .Net Framework をプラグイン プロセスに読み込んで Silverlight をテストしているため、この既知の問題が Silk Test で発生する場合があります。この場合、COM オブジェクトを解放するときにガーベジ コレクションがホスト Mozilla Firefox プロセスで呼び出されますが、Silk Test は .Net Framework がガーベジ コレクションを呼び出すタイミングをコントロールできません。

### domDoubleClick メソッドの modifiers パラメータが無視される

domDoubleClick メソッドのオーバーロードで修飾キーを指定できません。パラメータが指定されている場合でも、修飾キーはダブルクリックされません。修飾キーを指定できる domDoubleClick メソッドのオーバーロードは、非推奨です。修飾キーを指定するには、doubleClick メソッド (modifiers パラメータを取るオーバーロード メソッドをサポートするクライアントを使用している場合)、または PressKeys および ReleaseKeys メソッドを使用します。

## Microsoft Windows 8 の組み込みスペル チェックがテストの再生に干渉する

Microsoft Windows 8 の組み込みスペル チェックは、Internet Explorer 10 などのアプリケーションで有効にできます。

記録中に単語のスペルを間違え、この単語の入力を再生すると、スペルチェッカーはこの単語をマークするか、間違われやすい単語の場合は自動的に修正します。これは、実際のユーザーに対して行われる動作と同じです。スペル チェック機能が含まれていないオペレーティング システムでテストを作成した場合、Microsoft Windows 8 でテストを再生すると、予期せぬ結果が生じることがあります。スペル チェックを無効にするには、次の手順を実行します。

1. **Windows キー + C** を押します。
2. チャーム バーで **設定** をクリックします。
3. **PC 設定の変更** を選択します。
4. **全般** を選択すると、スペル チェック セクションが表示されます (使用中の言語によってスペル チェック機能の有無は異なります)。



**注:** これはシステム全体の設定で、Internet Explorer 10 だけの設定ではありません。

5. **スペル ミスの語句を自動修正する (Autocorrect misspelled words)** をオフに設定します。
6. **スペル ミスの語句を強調表示する (Highlight misspelled words)** をオフに設定します。

## .NET アプリケーションを DevPartner Studio (DPS) から起動すると、Silk Test で認識されないことがある

この問題を解決するには、以下のステップを実行します。

1. Silk Test のインストール フォルダ (デフォルトでは、C:\Program Files\Silk\Silk Test にあります) に移動します。
2. Windows Forms アプリケーションの場合は、ng\agent\plugins\com.borland.fastxd.techdomain.windowsforms.agent\_<バージョン番号> へ移動します。
3. Windows Presentation Foundation (WPF) の場合は、ng\agent\plugins\com.microsoft.silktest.techdomain.wpf.agent\_<バージョン番号> へ移動します。
4. メモ帳で、plugin.xml ファイルを開いて、<loadparameters> セクションに以下の行を追加します。

```
<param name="frameworkAssembly">mcore.dll</param>
```
5. Silk Test のインストール フォルダの ng\agent フォルダ (デフォルトでは、C:\Program Files\Silk\Silk Test\ng\agent にあります) に移動します。
6. メモ帳で、openagent.ini を開いて、ファイルの 1 番目の行として -clean を追加します。
7. コンピュータからログアウトして、再びログインします。DevPartner Studio によって起動されたアプリケーションに対して、Silk Test が期待どおりの動作をします。

## イメージ領域に対するクリックの記録時に矩形領域によってハイライトされる位置がずれる

エリア マップのような複雑なイメージの一部に対するクリックを記録する場合、イメージの適切な領域が緑色の矩形領域によってハイライトされません。ただし、再生時にクリックは正しく実行されます。

# モバイル アプリケーション

## TypeKeys が日本語文字に対して機能しない

TypeKeys 関数での日本語文字の使用はサポートされません。

# Web アプリケーション

## 100% 以外の拡大レベルを使用して記録すると期待通り機能しない可能性がある

100% 以外の拡大レベルを使用して Web アプリケーションを記録すると、期待通り機能しない可能性があります。Web アプリケーションに対する操作を記録する前に、ブラウザの拡大レベルを 100% に設定してください。

## Google Chrome

### Google Chrome の WaitForProperty のエラー

新しいページへの移動を起こす操作を実行したあと、WaitForProperty を使用して両方のページ上に存在するオブジェクトの同期を待つときに、ReplayException エラーになることがあります。この不具合を回避するには、操作を実行し、新しいページ上にのみ存在するオブジェクトで Find を実行したあと、それでも必要な場合に WaitForProperty を実行します。

### Silk Test が Google Chrome の認証ダイアログ ボックスの ログイン および キャンセル ボタンを認識しない

Silk Test が Google Chrome の認証ダイアログ ボックスの ログイン および キャンセル ボタンを認識しません。以下の回避策のいずれかを使用して、この制限事項を回避できます。

- テストする Web サイトの URL にユーザー名とパスワードを指定します。たとえば、Web サイト `www.example.com/loginrequired.html` にログインするには、以下のコードを使用します。

```
http://myusername:mypassword@example.com/loginrequired.html
```

- TypeKeys を使用して、ダイアログ ボックスにユーザー名とパスワードを入力します。たとえば、以下のコードを使用します。

```
desktop.find("//Window[@caption='Authentication Required']/Control[2]").TypeKeys("myusername")
desktop.find("//Window[@caption='Authentication Required']/Control[1]").TypeKeys("mypassword<Enter>")
```



**注:** Control[2] はユーザー名のフィールドで、Control[1] はパスワードのフィールドです。2 番目の TypeKeys の末尾の <Enter> キーで、ダイアログ ボックスのエントリを確認します。

### Google Chrome 21、26、27 : Accessibility オブジェクトが無効が見つからない

Google Chrome で Web アプリケーションのロケーターを記録しているときに、ダイアログ ボックス内の一部の Accessibility オブジェクトが認識されなかったり、記録されるオブジェクトの階層が無効であったりすることがあります。この問題は、プロンプトや HTTP 認証ダイアログ ボックスなど、すべての JavaScript ダイアログ ボックスに適用されます。既存のテストでこれらのダイアログ ボックスを使用している場合、Google Chrome でそれらのテストを再生するときに失敗することがあります。

### OpenTab が Google Chrome で正しく動作しない

Google Chrome でアプリケーションをテストするときに OpenTab を使用すると、Google Chrome のオートメーションインターフェイスが応答しなくなり、Google Chrome の再起動が必要になる場合があります。

### Windows で記録中のロケーターが Google Chrome で失敗する。

Google Chrome で Web アプリケーションをテストするときに、アプリケーションを実行している Google Chrome インスタンスのアプリケーション構成中に複数のウィンドウが開いていると、Windows

で記録中のロケーターが失敗します。アプリケーション構成中に他の Google Chrome ウィンドウを閉じると、エラーは発生しなくなります。

### **バージョン 1.7 より前のバージョンの Prototype JavaScript Framework を使用する Web サイトのテストに Google Chrome を使用できない**

これは、Prototype JavaScript Framework の問題で、バージョン 1.7 より前のバージョンのフレームワークでは、配列が正しく JSONified されないために発生します。これにより、Google Chrome テスト環境と Silk Test 実装が依存する Google Chrome の内部 domAutomation オブジェクトが影響を受け、テスト中に Google Chrome が正しく動作しない原因となります。この問題は、Prototype JavaScript バージョン 1.7 以降で修正されています。

Google Chrome を使用して Prototype JavaScript Framework を使用する Web サイトをテストするには、Prototype JavaScript をバージョン 1.7 以降に更新してください。

### **Google Chrome のバックグラウンド アプリケーションでオートメーション サポートを読み込むことができない**

Google Chrome を使用して Web アプリケーションをテストしている場合に、**Google Chrome を閉じた際にバックグラウンド アプリケーションの処理を続行する** チェックボックスがチェックされていると、Silk Test は Google Chrome を再起動してオートメーション サポートを読み込むことができません。

## **Internet Explorer**

### **Google ツールバーを使用すると、Web アプリケーションの記録に支障をきたす**

Internet Explorer 8 で Google ツールバーを使用すると、Web アプリケーションのロケーターの記録に支障をきたします。

Google ツールバーをオフにしてから、Web アプリケーションを記録してください。

### **Microsoft Silverlight アプリケーション**

一部の Microsoft Silverlight アプリケーションで、Silk Test との通信の際に Internet Explorer がハングします。32 ビットプラットフォームでは、問題の防止に役立つ MS KB 2564958 (Active Accessibility の更新プログラム) を参照してください。

### **Silk Test 13.5 より前のバージョンの Silk Test を使用して記録したロケーターが Internet Explorer で動作しない**

Silk Test 13.5 で、Internet Explorer の textContents 属性における空白文字の標準化を改良しました。この変更は、Silk Test のクロスブラウザ機能を改善するための措置で、textContents 属性を利用しているロケーターに影響を与える可能性があります。この属性は、Silk Test 13.5 以前のリリースを使用して記録されたスクリプトで使用されています。

### **いくつかのテキスト フォールバック メソッドが Microsoft Windows 8.1 および Internet Explorer 11 上で機能しない**

TestObject クラスの以下のテキスト フォールバック メソッドが Microsoft Windows 8.1 および Internet Explorer 11 上で機能しません。

- TextCapture
- TextExists
- TextRectangle



## UAC が Microsoft Windows 8 以降および Internet Explorer 11 で有効化されているとき、Open Agent に対して高い昇格を有効化できない

UAC が有効化され、Internet Explorer と Open Agent の両方を高い昇格で実行するとき、Microsoft Windows 8 以降で Internet Explorer 11 上の Web アプリケーションをテストできません。

## Mozilla Firefox

### Mozilla Firefox の最新のバージョンで Adobe Flash Player を使用したアプリケーションの呼び出しが正しく同期されない

Mozilla Firefox 13.0 以降で、最新の Adobe Flash Player のバージョンを使用している場合、呼び出しの際に同期が正しく動作しないことがあります。次の問題が発生する可能性があります。

- Mozilla Firefox は実行中のスクリプトをハングしているものと勘違いして、確認ダイアログ ボックスが表示され、スクリプトが正しく実行されているにも関わらずスクリプトの実行を続けるかどうかを尋ねられる場合があります。
- SetFocus が正しく機能しないために文字の入力が動作しない場合があります。
- UI 上では新しい値で更新されているにも関わらず Adobe オートメーションが古い値に戻す場合があります。

Adobe Flash Player を使用したアプリケーションでこれらの問題のいずれかが発生した場合は、Adobe Flash Player の保護モードを無効化してください。詳細については、<http://forums.adobe.com/thread/1018071> の「Last Resort」に記述されている情報を参照してください（日本語訳: [http://helpx.adobe.com/jp/flash-player/kb/cpsid\\_93769.html](http://helpx.adobe.com/jp/flash-player/kb/cpsid_93769.html) の「F. 問題が改善されない場合」）。

### テキスト解決のオフセット値が Mozilla Firefox 17 で誤っている場合がある

Mozilla Firefox 17 では、テキスト解決が正しいオフセット値を使用しない場合があります。この場合、Mozilla Firefox のコンテンツは再描画されません。

### テキスト解決が Mozilla Firefox 18 以降 で機能しない

Mozilla Firefox 18 以降 では、テキスト解決が機能しません。

## Rumba アプリケーション

Silk Test は、Rumba メインフレーム デモ ホスト画面のテストをサポートしていません。

Silk Test は、実際に接続した任意のメインフレーム画面で実行するスクリプトを記録、再生できますが、Rumba メインフレーム デモ ホスト画面については、デモ ホストの実装における技術的制約により、Silk Test を使ってテストすることができません。

## SAP アプリケーション

SAPTree クラスの HierarchyHeaderWidth および ColumnOrder プロパティが書き込み専用になっている

自動化に関するドキュメントに記載されている場合を除いて、SAPTree の HierarchyHeaderWidth および ColumnOrder プロパティは書き込み専用で、読み込むことはできません。

これらのプロパティを使用する場合、スクリプトで、読み込みではなく、書き込みが使用されていることを確認します。



### SAPTree クラスの GetColumnIndexFromName() が「特定できないエラー」により失敗する

SapTree クラスの GetColumnIndexFromName() は「特定できないエラー」により失敗することがあります。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

SAP Web サイトでこの問題が解決されているかどうか確認してください。

### コンテキスト メニュー項目の SAPTree クラスの Select() メソッドの呼び出しに失敗する

コンテキスト メニュー項目の SAPTree クラスの Select() メソッドの呼び出しに失敗することがあります。

代わりに親コントロールの SelectContextMenuItem を呼び出します。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

### 水平スクロールバーの Position プロパティが常に 1 を返す

水平スクロールバーの Position プロパティは常に 1 を返します。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

SAP Web サイトでこの問題が解決されているかどうか確認してください。

### SAPNetPlan クラスがサポートされていない

この問題は今後のリリースで解決される予定です。

### SAP スクリプトを高速モードで実行すると、再生エラーが発生する

SAP テストを Silk Test Recorder を使用して記録し、**再生速度: 速い** 設定で再生すると、エラーが発生する場合があります。エラー メッセージは、「この操作を完了するのに必要なデータは、まだ利用できません」です。

再生速度をこれより遅い設定に変更します。または、xBrowser ではなく、SAP オートメーションを使用して問題が発生する操作を再生するように、スクリプトを変更します。たとえば、その操作を DomLink.Select から SapHTMLViewer.SapEvent に変更します。

### SAPGUI クライアント 7.30 を使用するとメソッド selectCurrentRow が誤った値を返す

SAPGUI クライアント 7.30 を使用しているときに、メソッド getCurrentRow を呼び出すと、メソッドは行番号ではなく誤った値 -1 を返す場合があります。

### メソッド resizeWorkingPane が SAPGUI クライアント 7.30 で正しく機能しない

SAPGUI クライアント 7.30 を使用しているときに、メソッド resizeWorkingPaneEx を呼び出すと、メソッドは workingPane のサイズを変更せずに、getSapWindow().getWidth() の呼び出し結果は、ウィンドウの幅と異なる値を返します。

## Silk Test Classic

### Silk Test モニターを実行する前に、agent.exe および partner.exe プロセスが強制終了されたことを確認する

Silk Test モニターまたは GUI レベル テストを実行する場合、モニター実行後に Agent.exe または Partner.exe プロセスが正しく終了せず、一時結果フォルダが開いたままになることがあります。モニター実行中にこの問題が発生すると、以降のモニターがすべて失敗し、エラー「LoadtestController: 3302 - 結果ディレクトリをクリアできませんでした」が表示され、クリアされません。

実行サーバー上で Agent.exe または Partner.exe プロセスを手動で強制終了するか、必要に応じて自動的にプロセスを強制終了する必須アクションを作成します。

### ウィンドウ クラスをタグを付けずに宣言した場合、不明な動作が発生する

Silk Test でタグを付けずにウィンドウ クラスを実装した場合、不明なエラーとクラッシュが発生します。たとえば、以下のコードでは、tag 行は必須となります。

```
[ - ] winclass MyDialogBox : DialogBox
[   ] tag "[DialogBox]"
[   ] locator "//DialogBox[@caption='Check Box']"
```

タグ行が存在する場合、コードは本来の動作をします。ただし、タグ行が存在しない場合、不明なエラーとクラッシュが発生します。たとえば、以下のコードで問題が発生します。

```
[ - ] winclass MyDialogBox : DialogBox
[   ] locator "//DialogBox[@caption='Check Box']"
```

## Silk Test Workbench

### 大規模サイトでのビジュアル テストの再生

xBrowser の使用中に大規模サイトでビジュアル テストを実行すると、パフォーマンス問題が発生することがあります。この問題を回避するには、**再生 > 結果 > ビジュアル テスト > コントロールのキャプチャ オプション**をいいえ に設定します。

### スクリプトの再生時にバックグラウンドにメッセージ ボックスが表示される (31314)

メッセージ ボックスのステートメント (MsgBox ("Hello") など) を .NET スクリプトに含めた場合、スクリプトの再生時にバックグラウンドにメッセージ ボックスが表示されます。

メッセージ ボックスをフォアグラウンドに表示するには、MsgBox ステートメントに MsgBoxStyle.MsgBoxSetForeground を含めます。例：

```
MsgBox ("Hello", MsgBoxStyle.MsgBoxSetForeground)
```

### インストーラが SQL Server Native Client のインストールと COM サーバーとしての Silk Test Workbench の登録に失敗する

Silk Test のインストール中またはインストール前に、オペレーティング システムが自動更新を実行するか、またはユーザーが Windows アップデートを行った場合、インストーラは SQL Server Native Client のインストールと COM サーバーとしての Silk Test Workbench の登録に失敗します。

これらの問題は共に、Silk Central Test Manager (SCTM) の統合に影響を与えます。それは、SCTM では SQL Server Express によってインストールされたネイティブ クライアント ドライバを使用して Silk Test Workbench DSN を作成するためです。さらに SCTM は、自動化に COM インターフェイスを使用するには、COM サーバーとして登録された Silk Test Workbench を必要とするためです。

以下の解決策のいずれかを選択します。

1. Windows アップデートの実行中に Silk Test をインストールしない。
2. 使用しているマシンに Windows アップデートが自動的にインストールされないようにする。
3. 保留中の Windows アップデートを Silk Test より先にインストールしてから、システムを再起動し Silk Test をインストールする。

### 複数の修飾キーを含めるようホット キーの組み合わせを変更すると、追加のキーが記録される

検証の挿入用または記録の開始/停止用に複数の修飾キーを含むホットキーを構成している場合は、修飾キーを押す操作が記録されることがあります。たとえば、Alt+Ctrl+F9 というホット キーの組み合わせを指定した場合、Alt は、ホット キーの組み合わせの一部として無視されるのではなく、キーを押す操作として記録されることがあります。これは、キーから手を離すという対応する操作がないため、再生時に問題になります。

修飾キーに関連するこの操作を手動で削除するか、ホット キーの修飾キーを 1 つだけ使用します。

## SQL Server DSN が 64 ビット システムで動作しない

64 ビット DSN は Silk Test Workbench で使用できません。64 ビット マシンで DSN を作成するには、**スタート > Silk > Silk Test > 管理 > データ ソース (ODBC)** をクリックして、32 ビット DSN を作成します。C:\¥WINDOWS¥SysWOW64¥odbcad32.exe にある WOW64 ツールを使用することもできます。

## Silk Test Workbench を起動するのにネットワーク接続が必要になる

Silk Test Workbench を起動するためには、ネットワーク接続が必要です。ネットワーク接続が使用できない場合、エラー「Open Agent との接続に失敗しました」が発生します。他のクライアント (Silk Test Classic、Silk Test Recorder など) を起動する場合には、ネットワーク接続は必要ありません。

Silk Test Workbench を起動する前に、ネットワーク接続が使用可能であることを確認してください。

## SQL Server Express を Windows Vista SP1 マシンにインストールできない

Windows Vista SP1 マシンでは、SQL Server 2008 Express をインストールしようとする場合、.NET 3.5 SP1 の完全バージョンがインストールされていることを確認してください。.NET 3.5 SP1 の完全バージョンをインストールするには、Microsoft の Web サイトからダウンロードします。

## [画面プレビューから識別] により、移行されたデータベースに不正なオブジェクト マップ項目が作成される

Silk Test Workbench 2010 から Silk Test Workbench 2010 R2 に移行したあと、**画面プレビューから識別** を使用すると不正なオブジェクト マップ項目が作成されます。

**画面プレビューから識別** を使用する前に、**画面の更新** コマンドを使用して、画面を再キャプチャします。

## 子スクリプトが親スクリプトから呼び出されると、子スクリプトはスコープ外のオブジェクト マップにアクセスできる

親スクリプトと子スクリプトが異なるプロジェクトに含まれており、異なるオブジェクト マップを使用している場合、オブジェクト マップが子スクリプトのスコープ外であっても、子スクリプトは正常に実行されます。

スクリプトが正常に実行されるため、解決策は必要ありません。ただし、この動作は今後のリリースでは正常に実行されなくなります。

## 複数ユーザーが SQL 2008 データベース上で同じ資産を同時に編集しようとする、資産のロック機構に関する問題が発生する可能性がある

問題かどうかをテストするには、ビジュアルテストなどの資産を開いて、Silk Test Workbench で編集できるようにします。資産が開いている間に、Silk Test Workbench の別のインスタンスから同じ資産を開きます。問題が発生した場合は、Silk Test Workbench の 2 番目のインスタンスで同じ資産を同時に編集できるか、または 2 番目のインスタンスが不完全なデータに関するメッセージを受け取ります。このときユーザー名とマシン名は共に空白になります。

SQL Server で、データベースの管理者権限を、このデータベースを使用する SQL データベース ユーザーに割り当てます。

## SQL データベースで資産のエクスポート中に予期しないエラーが発生する

SQL データベースで資産のエクスポート中に予期しないエラー「文字列から uniqueidentifier に変換中、変換に失敗しました」が発生します。

エクスポートしたデータベースをインポートし、何らかのエラー メッセージが表示された場合 OK を押します。インポートは正常に終了し、資産を使用できます。

## Access データベースの使用中に予期しないエラーが発生する

Silk Test データベース メンテナンス ツールを使用してデータベースをコンパクト化します。 **スタート > プログラム > Silk > Silk Test > 管理 > データベース メンテナンス** をクリックします。次に、データベースを開き、 **ツール > データベースのコンパクト化** をクリックします。

## 構成中に UAC が有効な状態で Silk Test Workbench が SQL Server へ接続できない

構成中に管理者権限を持たずに Silk Test Workbench を使用している場合、UAC が有効な状態で SQL Server へ接続できません。

構成中に SQL Server へ接続するには、**管理者として実行** オプションを使用して Silk Test Workbench を起動する必要があります。

## リモートの SQL データベースとの接続が失われたときに Silk Test Workbench が異常終了する場合があります

リモートの SQL データベースを使用している場合、データベースが Silk Test Workbench から切断されると (サーバーを再起動した場合など)、Silk Test Workbench がデータベースとの通信を行おうとする際に異常終了する場合があります。

Silk Test Workbench を再起動して、データベースと再接続してください。

## [コントロールのキャプチャ] オプションが設定されているとビジュアル テストの再生速度が著しく低下する場合があります

再生のパフォーマンスを向上させるには、[コントロールのキャプチャ] を **いいえ** に設定します。

# Silk4NET

テストの実行後に TrueLog 結果ファイルが得られない場合、次を確認してください。

- Visual Studio 2010 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2010 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。
- Visual Studio 2012 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2012 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。
- テストクラスに SilkTestClass 属性が含まれている。
- TrueLog ファイルが作成される場所への書き込みアクセス権がある。

再生中に「**単体テスト アダプターが例外をスローしました、**」というエラー メッセージが表示された場合は、次を確認してください。

- Visual Studio 2010 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2010 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。
- Visual Studio 2012 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2012 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。

**VS2010 で作成された Silk4NET プロジェクトから VS2012 に移行するには、次の手順を実行します。**

- VS2012 でソリューションを開きます。
- Silk4NET プロジェクトのターゲット フレームワークを .NET Framework 4.5 に変更します。
- Silk4NET プロジェクトから参照 SilkTest.Ntf.VisualStudio2010.UnitTestingExtension を削除します。
- Silk4NET プロジェクトに参照 SilkTest.Ntf.VisualStudio2012.UnitTestingExtension を追加します。

## オブジェクト マップを使用していると、先頭がスラッシュになっていない既存のロケータが機能しなくなる

クラス名のみを含み、スラッシュで開始していないロケータ (PushButton など) は、オブジェクト マップが存在する場合、機能しなくなります。この問題により、Silk Test 14.0 よりも前のバージョンの Silk Test で作成された既存のスクリプトが壊れる可能性があります。前の例では、スクリプトは次のエラーで失敗します：

識別子 'PushButton' がオブジェクト・マップ内で見つかりませんでした。

クラス名以外のもも含む、より複雑なロケータ (PushButton[@caption=OK] など) の場合は、オブジェクト マップが存在する場合でも機能し続けます。

この問題を修正するには、そのようなロケータの先頭に // を追加します。たとえば、次のコード内のロケータ PushButton が機能しなくなったとします：

```
PushButton button = mainWindow.find("PushButton");
```

。その場合、コードを次のように変更してください：

```
PushButton button = mainWindow.find("//PushButton");
```

。

## Silk4J

### Silk4J メニューが Eclipse 4.1 で正しく開かない

Eclipse 4.1 で Silk4J メニュー ボタンをクリックしても、メニュー項目が表示されません。これは、Eclipse 4.2 で修正されている Eclipse の問題です。詳細については、[https://bugs.eclipse.org/bugs/show\\_bug.cgi?id=367159](https://bugs.eclipse.org/bugs/show_bug.cgi?id=367159) を参照してください。

## オブジェクト マップを使用していると、先頭がスラッシュになっていない既存のロケータが機能しなくなる

クラス名のみを含み、スラッシュで開始していないロケータ (PushButton など) は、オブジェクト マップが存在する場合、機能しなくなります。この問題により、Silk Test 14.0 よりも前のバージョンの Silk Test で作成された既存のスクリプトが壊れる可能性があります。前の例では、スクリプトは次のエラーで失敗します：

識別子 'PushButton' がオブジェクト・マップ内で見つかりませんでした。

クラス名以外のもも含む、より複雑なロケータ (PushButton[@caption=OK] など) の場合は、オブジェクト マップが存在する場合でも機能し続けます。

この問題を修正するには、そのようなロケータの先頭に // を追加します。たとえば、次のコード内のロケータ PushButton が機能しなくなったとします：

```
PushButton button = mainWindow.find("PushButton");
```

。その場合、コードを次のように変更してください：

```
PushButton button = mainWindow.find("//PushButton");
```

。

# 解決済みの問題

以下の問題が解決されています。



問題番号	説明
RPI 1087345	Open Agent が Java Web Start アプリケーションの GUI に影響を及ぼします。
RPI 1089162	参照した .NET スクリプトの保存。
RPI 1089241	Silk Test Workbench : ビジュアル テストにおける ,Microsoft Silverlight 検証のパフォーマンス問題。
RPI 1089395	Silk Test Workbench : 画面検証追加時の画面フォーカスの問題。
RPI 1089418	Silk Test Workbench : ビジュアル テスト結果のショートカットでの移動の問題。
RPI 1089542	Java AUT が Open Agent によってフックされているときに AUT のウィンドウが開かない場合があります。
RPI 1089563	Silk Test Classic : Classic Agent ライセンスがテストの終了後に開放されません。
RPI 1089571	AUT のコントロールの挿入を実行後に Silk Test Workbench が最前面に現れずにバックグラウンドに残ります。
RPI 1089791	Silk Test インストーラが Windows ファイアウォール例外を Microsoft Windows 8 に追加しません。
RPI 1089828	ビジュアル ステップ オブジェクトが完全修飾されたロケーターで記録されるようになった。
RPI 1089873	Silk Test Workbench 14.0 ビジュアル テストの挿入時の問題。
RPI 1089915	Silk Test Workbench : IF 条件が機能するようにする。
RPI 1089921	Silk Test 14.0 と VMware vSphere クライアントを使用すると「オブジェクト参照がオブジェクトのインスタンスに設定されていません。」エラーが発生します。
RPI 1089971	Silk Test Workbench 14.0 インデックスが割り当てられていないコントロールでの問題。
RPI 1090018	イメージ検証の UI がハングします。
RPI 1090077	日本語 : Silk Test 14.0 での JTestArea オブジェクトの識別が Silk Test 13.5 と異なります。
RPI 1090192	Silk Test が WinForms アプリケーションを識別できない。
RPI 1090153	Silk Test Classic: イメージ認識のエージェント メソッドを呼び出すことができません。
RPI 1090319	イメージ検証ステップが予約した変数に値を返しません。
RPI 1090325 および 1090397	Silk Test Workbench : Silk Test 14.0 で、ビジュアル テストのエラー処理が常に再生エラーになります。
RPI 1090341	Win32 アプリケーションが Open Agent によってクラッシュします。
RPI 1090369	getUrl を呼び出すと Google Chrome がクラッシュします。

問題番号	説明
RPI 1090489	Java AWT/Swing: Silk Test がテンキーの記録時に間違っただテキストを記録します。
RPI 1090498	DynamicInvokeMethods 関数と InvokeMethods 関数の動作に誤りがあります。
RPI 1090638	Silk Test Workbench: 検証プロパティの値に空白を追加すると検証が失敗します。
RPI 1090652	Silk Test 14.0 HotFix 1: 英語版インストールに日本語のリリース ノートが含まれます。
RPI 1090716	画面検証追加時の画面フォーカスの問題。
RPI 1090780	Silk Test Classic: <b>Mark By Named Query</b> がテスト ケースをマークしません。
RPI 1090809	Silk Test Workbench: ビジュアル テストの画面プレビューに表示されるプロパティが AUT で利用可能なプロパティと異なります。
RPI 1090828	JDialog が再生時に Open Agent によって識別されません。
RPI 1090841	Silk4NET: オブジェクト マップの問題。
RPI 1091150	Silverlight: 'Using ステップ' が画面プレビューでコントロールとのやり取りを許さない。
RPI 1091294	Silk Test Workbench: 既存のオブジェクト マップ エントリが新しいテストの記録時に無視される。
RPI 1091325	ORA-00942: 表またはビューが存在しません。CDB 例外。
DE5673	Locator Spy: ブラウザーでの要素のハイライトがひとつの要素に対してのみ機能します。
DE5727	Silk Test Workbench: 結果のコマンドの詳細列に正しい情報が表示されません。
DE5736	ListBox.DoubleSelect の Win32 再生時に、操作によってダイアログが閉じる結果になる場合に失敗します。
DE5840	Silk Test Workbench 実行の成功条件タイムアウトがそれ以降のテストを失敗させます (Silk Central RPI 1090251)。
DE6024	isZoomed が <b>バージョン情報</b> ダイアログ ボックスで呼ばれると、Internet Explorer 8 がクラッシュします。
US12489	ブラウザーのズーム倍率が 100% でない場合にメッセージを表示するべきです。

# ライセンス情報

評価版を使用しているのではない限り、Silk Test はライセンスを必要とします。

ライセンス モデルは、使用しているクライアントとテストすることができるアプリケーションに基づきます。利用可能なライセンス モードに応じて、次のアプリケーションの種類がサポートされます。

ライセンス モード	アプリケーションの種類
完全	<ul style="list-style-type: none"><li>• Web アプリケーション (以下を含む)<ul style="list-style-type: none"><li>• Apache Flex</li><li>• Java アプレット</li></ul></li><li>• モバイル Web アプリケーション Silk Test Classic 以外のすべてのクライアント<ul style="list-style-type: none"><li>• Android</li></ul></li><li>• Apache Flex</li><li>• Java AWT/Swing</li><li>• Java SWT と Eclipse RCP</li><li>• .NET (Windows Forms および Windows Presentation Foundation (WPF) を含む)</li><li>• Rumba</li><li>• Windows API ベース</li></ul> <p> <b>注:</b> ライセンスを完全ライセンスにアップグレードする場合は、<a href="http://www.borland.com">www.borland.com</a> に移動します。</p>
プレミアム	<p>完全ライセンスでサポートされるすべてのアプリケーションの種類 + SAP アプリケーション</p> <p> <b>注:</b> ライセンスをプレミアム ライセンスにアップグレードする場合は、<a href="http://www.borland.com">www.borland.com</a> に移動します。</p>



# テストされたソフトウェア

このセクションでは、Silk Test15.0 がテストされたソフトウェアを一覧します。



## オペレーティング システム


Silk Test15.0 は、次のオペレーティング システムでテストされました。

- Microsoft Windows XP SP3
- Microsoft Windows Vista SP2
- Microsoft Windows Server 2008
- Microsoft Windows Server 2008 R2
- Microsoft Windows 7
- Microsoft Windows 7 SP1
- Microsoft Windows 8
- Microsoft Windows 8.1
- Microsoft Windows Server 2012

## Web アプリケーション

Open Agent の場合、Silk Test15.0 は次のブラウザおよび Web テクノロジーに対してテストされました。

テクノロジーの種類	テストしたバージョン
Mozilla Firefox (再生のみ)	10、17、22、23、24、25
Google Chrome (再生のみ)	28、29、30、31
Chrome for Android	
Stock Android Browser	
Internet Explorer	8、9、10、11
Android	4.1、4.2、4.3、4.4
Silverlight	3 (Silverlight Runtime 4)、4 (Silverlight Runtime 4 および Silverlight Runtime 5)  <b>注:</b> Microsoft は、Silverlight 5.0 を 2021 年までサポートすることをコミットしましたが、Silverlight の今後のロードマップに関する具体的な情報は何もなされませんでした。我々はおお客様に対する最高のサポートを維持するよう努力しますが、このプラットフォームに対する Microsoft から得られるサポートに限界がある可能性があります。
Apache Flex	Silk Test15.0 は、すべてのサポート対象ブラウザを使用した Apache Flex バージョン 3.5 以降、および Adobe AIR 2.0 以降 (Apache Flex 4.x でビルド) を使用してテストされました。  <b>注:</b> Silk Test は、Apache Flex を含めて、Google Chrome で実行する Web アプリケーションの子ドメイン テクノロジーのテストをサポートしていません。 Silk Test は Adobe Flash Player 10 以降をサポートしています。
Java アプレット	Silk Test は、Internet Explorer および Mozilla Firefox のアプレットをサポートしています。

テクノロジーの種類	テストしたバージョン
 <b>注:</b> HTML に組み込まれたアプレットのコンテンツはテストできますが、外部ダイアログとフレームはテストできません。	

## デスクトップ アプリケーション

Open Agent の場合、Silk Test15.0 は次のテクノロジーの 1 つで開発されたデスクトップ アプリケーションに対してテストされました。

テクノロジーの種類	テストしたバージョン
Java AWT/Swing (Java Foundation Classes を含む)	Java 1.6、Java 1.7
Java SWT	Silk Test15.0 は Java SWT バージョン 3.2 以降に対してテストされました。 スタンドアロンと Rich Client Platform (RCP) アプリケーション (ブラウザでアプレットとして実行される SWT スタンドアロン アプリケーションはサポートされていません)
SAP	SAPGUI クライアント 7.10、SAPGUI クライアント 7.20、SAPGUI クライアント 7.30
Rumba	8.1、8.2、8.3、9.0、9.1、9.2
Win 32	任意
WinForms	.NET 3.0、3.5、3.5 SP1、4.0、4.5
WPF	.NET 3.5 SP1、4.0、4.5

## Silk Test Workbench

Silk Test15.0 は Silk Test Workbench 資産の格納用に次のデータベースに対してテストされました。

- Microsoft SQL Server 2008 (SP2) + Express
- Microsoft SQL Server 2012
- Microsoft SQL Server 2012 SP1
- Oracle 11.1
- Oracle 11.2
- Microsoft Access 2000 (シングルユーザー データベースとして)

 **注:** Micro Focus は、Microsoft SQL Server を使用することを推奨します。

## Silk4J

Eclipse 3.7.2 以降では Silk4J を統合できます。バージョン 4.3.1 は Silk Test に付属しています。

## Silk4NET

Silk4NET は Visual Studio の次のバージョンと統合できます。

- Visual Studio 2010 Professional
- Visual Studio 2012 Professional
- Visual Studio 2013 Professional

## Silk Test Classic

Silk Test Classic のデータ ドリブン ワークフローは、以下に対してテストされました。

- テキスト ファイルおよびカンマ区切り値ファイル (\*.txt ファイルおよび \*.csv ファイル)
- MS Excel
- MS Access
- MS SQL Server
- Oracle (部分的なサポート)
- SyBase SQL Anywhere

Silk Test Classic は、ODBC を使用して上記のデータベースにアクセスするため、有効な ODBC ドライバを持つこれらのデータベースのバージョンに対してテストされました。



**注:** Silk Test Classic の **Select Data Source** ダイアログ ボックスで、Silk DDA Excel または Segue DDA Excel のいずれかのデータ ソースを選択できます。新しいデータ ドリブン テストケースの場合は、Silk DDA Excel データ ソースを選択します。Segue DDA Excel データ ソースは後方互換性のために選択します。これにより、Segue DDA Excel を参照する既存の .g.t ファイルが引き続き機能します。